

国語科（書写）学習指導案

第3学年 14名
指導者 木村栄治
支援員 長尾留美

1 単元 ひらがなの筆使い「曲がり」

2 単元について

(1) 単元設定の理由

新学習指導要領では、第3学年及び第4学年の2内容〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2)「ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。」とある。

本単元は、3年生の毛筆で初めてのひらがなの学習であり「曲がり」の筆使いを理解して書くことをねらいとしている。ここでは『つり』を題材とし『つ』の学習に焦点をおき「曲がり」における筆の「軸」の扱いと、穂先の動きについてつかませる。毛筆学習の入門期に基本点画を正確に書くという意識を育てるのにふさわしい単元であると考える。

(2) 児童の実態

4月から始まった毛筆学習に、児童は毎時間意欲的に取り組んでいる。1学期末に実施した書写学習に関するアンケートでは「文字を書くことは好きですか」「書写の授業は好きですか」の項目に対して、ほとんどの児童が好きだと答え、そして「書くことが楽しいから」という理由を挙げていた。これまでの書写の授業の歩みとして「問題解決的な学習で筆使いの原則を探る授業」「互いの進歩を認め合う授業」を実践してきた。また普段から、一日一度は書写コーナーで筆を持ち、毛筆に慣れていこうと呼びかけてきた。これらの取り組みが、このアンケートの結果に結び付いたと考えられる。

3年生の書写学習では「横画」「縦画」「折れ」「はらい」「はね」を学習した。毎時間、試し書きと基準文字を自己批正・相互批正しながら、めあてを確認してまとめ書きを行ってきた。また二色筆を常時活用することで、漢字についての穂先の動きに対する意識は少しづつ高まってきている。

(3) 指導にあたって～基礎・基本の定着を図る学習活動の工夫～

本単元は2時間で構成し、第1次では『つり』の『つ』を取り上げ、ひらがなの「曲がり」について学ぶ。各練習コーナーの活動を通して、筆使いの原則(①「曲がり」で筆の軸は動かさない②右回りの穂先の通り道は、上から左へ動く)を子どもたち自身でつかませる。第1次でつかんだ筆使いの原則をもとに、第2次では『つり』の二文字を扱う。ここでは、整えて書くために必要な既習事項を確認させたり、文字の外形に注意させたりしていく。

本校の研究テーマに迫るために、本時では学習活動の工夫を次のように行う。一つ目は、視聴覚機器の活用である。導入時では「曲がり」の軸の扱いをどうすればよいか、事前に撮影した二つの動画をみて比較することで、めあてづくりをしやすくする。また「確かめる」活動では、代表の児童が実物投影機の下で実際に書いてみて、プロジェクターで映し出す。そのことで、友達の筆使いやまとめ書きのよさについて認め合うことができるようになる。二つ目は、軸への意識を高めるための練習用具・用紙の工夫である。これは「高める」活動において、筆にシールを貼ったり、軸の扱いを意識させる練習用紙を準備する。これらの取り組みで、毛筆学習入門期にあたる3年生に、筆使いの具体的イメージをもたせたい。

3 単元の目標

- (1) 友達と学び合いながら、進んで取り組むことができるようになる。
(2) ひらがなの「曲がり」の筆使いを正しく理解して書くができるようになる。

4 単元の評価規準

ア	関心・意欲・態度	① ひらがなの「曲がり」の筆使いについて、めあてをもって進んで書こうとしている。 ② 友達と学び合うことを通して、互いのよさを見つけ、認め合おうとしている。
イ	言語についての知識・理解・技能	① ひらがなの「曲がり」の筆使いを正しく理解して書くことができる。

5 単元の指導計画

第1次 「曲がり」の筆使い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間 (本時)
第2次 「曲がり」の筆使いと字形・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

6 本時の学習

(1) 目標

- めあてをつかみ、友達と学び合いながら進んで書くことができるようになる。
○ 「曲がり」の筆使いの原則を見付けて書くができるようになる。

(2) 展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	具体的評価規準 (評価方法)
つかむ	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 試し書きをする。 『つ』の筆使いの動画を見る。 曲がりの筆使いはどうすればよいか話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「軸が回っている筆使い」と「軸が回っていない筆使い」の二種類の動画を見て、筆の扱いの違いに気付くようにする。 軸の扱い、穂先の通り道に観点をしづらり『つ』の筆使いはどうすればよいか予想させる。 	
	<p>「曲がり」のふでづかいのひみつをさぐろう。</p>		
高める	<p>2 予想を確かめるために練習コーナーで活動をし、曲がりの筆使いの原則をまとめ、自分のめあてをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 筆使いを確認するために、二人一組になり、目的に応じたコーナーを選んで確かめ活動ができるようにする。 <p>水書コーナー（通常の筆） 水書コーナー（大筆） 二色筆コーナー</p>	ア①（発言・観察）
	<p>3 めあてに応じた練習用紙を使って練習する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 練習での気付きを出し合い、曲がりの筆使いの原則をまとめる。 	ア②（発言・観察）
確かめる	<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> まとめ書きをする。 試し書きとまとめ書きを比べて、よくなつたところを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 軸を動かさないようにシールを貼らせる。 軸の扱いと穂先の通り道に気を付けるよう個々に助言する。 	イ①（観察） イ①（まとめ書き）
生かす	<p>5 学習したことを生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 曲がりがある他のひらがなを見付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 右回りで、軸を回さないことで、穂先が上から左へ移ることができているかを、相互・個人で評価する。 「ち」「ら」等に「曲がり」があることに気付かせ、日常生活に生かせるようにする。 	

(3) 評価および指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア①	めあてをつかみ、練習方法を選び、進んで書こうとしている。
ア②	友達とのかかわり合いを通して、課題解決に取り組んでいる。
イ①	「曲がり」の正しい筆使いを理解し、字形を整えて書くことができる。

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	軸の扱いと穂先の動きに目を向けるよう助言し、めあてをつかませる。
ア②	軸の扱いと穂先の動きに着目させ、友達の筆使いのよさに気付くようにする。
イ①	軸の扱いと穂先の動きをどうすればよいのか、個別に支援する。